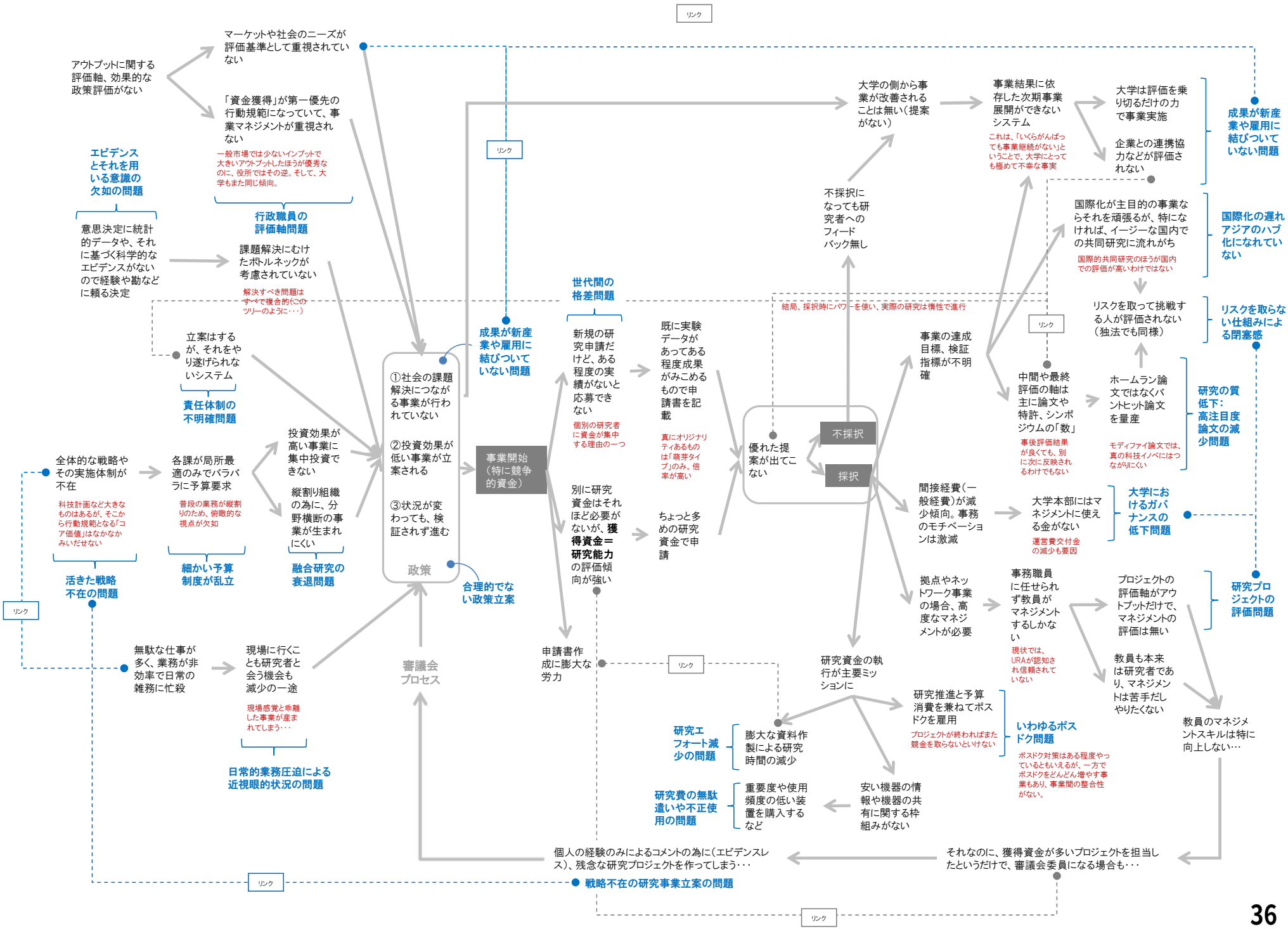
科学技術政策の全プロセスにおける様々な課題の相互関係表現シナリオ


リンク
アウトプットに関する評価軸、効果的な政策評価がない
マーケットや社会のニーズが評価基準として重視されていない
「資金獲得」が第一優先の行動規範になっていて、事業マネジメントが重視されない
一般市場では少ないインプットで大きいアウトプットしたほうが優秀なのに、役所ではその逆。そして、大学もまた同じ傾向。
行政職員の評価軸問題
エビデンスとそれを用いる意識の欠如の問題
意思決定に統計的データや、それに基づく科学的なエビデンスがないので経験や勘などに頼る決定
課題解決にむけたボトルネックが考慮されていない
解決すべき問題はすべて複合的（このツリーのように・・・）
立案はするが、それをやり遂げられないシステム
責任体制の不明確問題
全体的な戦略やその実施体制が不在
科技計画など大きなものはあるが、そこから行動規範となる「コア価値」はなかなかみいだせない
活きた戦略不在の問題
各課が局所最適のみでバラバラに予算要求
普段の業務が縦割りのため、俯瞰的な視点が欠如
細かい予算制度が乱立
投資効果が高い事業に集中投資できない
縦割り組織の為に、分野横断の事業が生まれにくい
融合研究の衰退問題
無駄な仕事が多く、業務が非効率で日常の雑務に忙殺
現場に行くことも研究者と会う機会も減少の一途
現場感覚と乖離した事業が産まれてしまう・・・
日常的業務圧迫による近視眼的状況の問題
①社会の課題解決につながる事業が行われていない
②投資効果が低い事業が立案される
③状況が変わっても、検証されず進む
政策
成果が新産業や雇用に結びついていない問題
合理的でない政策立案
審議会プロセス
事業開始（特に競争的資金）
世代間の格差問題
新規の研究申請だけど、ある程度の実績がないと応募できない
個別の研究者に資金が集中する理由の一つ
既に実験データがあってある程度成果がみこめるもので申請書を記載
真にオリジナリティあるものは「萌芽タイプ」のみ。倍率が高い
別に研究資金はそれほど必要がないが、**獲得資金＝研究能力**の評価傾向が強い
ちょっと多めの研究資金で申請
申請書作成に膨大な労力
優れた提案が出てこない
不採択
採択
結局、採択時にパワーを使い、実際の研究は惰性で進行
不採択になっても研究者へのフィードバック無し
大学の側から事業が改善されることは無い（提案がない）
事業結果に依存した次期事業展開ができないシステム
これは、「いくらがんばっても事業継続がない」ということで、大学にとっても極めて不幸な事実
大学は評価を乗り切るだけの力で事業実施
企業との連携協力などが評価されない
成果が新産業や雇用に結びついていない問題
国際化が主目的の事業ならそれを頑張るが、特になければ、イージーな国内での共同研究に流れがち
国際化の遅れ アジアのハブ化になれていない
国際化の遅れ
国際化の遅れ
国際化の遅れ